

(2) 自然環境と生物

① 那珂川本川

下流部では、アユやギンブナ、ウグイ、オイカワ（国内外来種）、タモロコ（国内外来種）が見られるほか、ニゴイやヌマチチブなどが見られる。また、初夏から秋にかけては、海との関わりのあるボラ、メナダ、スズキ、マハゼ、ギンガメアジなどが見られ、分布北限と考えられるカワアナゴも確認されている。しかし、近年では国外外来種のタイリクバラタナゴやオオクチバスの姿が目立ってきている。



カワアナゴ（カワアナゴ科）
（写真：稲葉 修氏）



ニゴイ（コイ科）
（写真：稲葉 修氏）



ヌマチチブ（ハゼ科）
（写真：稲葉 修氏）



ギンガメアジ（アジ科）
（写真：稲葉 修氏）



下流域の漁舟（水戸市 6月）



ギンブナ（コイ科）
（写真：なかがわ水遊園）

図 4-57 那珂川下流域の魚

平成14年度に実施された「河川水辺の国勢調査」によると、下流域の植生で最も広い面積を占める植生は、セイタカアワダチソウ群落(9%)、次いでオギ群落、畑地、人工裸地、水田、ヨシ群落などである。

河川特有の植生であるヤナギ林は、河口から20km付近の左岸砂州(水戸市下国井町地先)の下流や、27km付近の右岸(城里町那珂西地先)に見られる。

下流域における外来植物の面積の比率は、約20%である。下流域全体での外来植物の群落の内訳は、セイタカアワダチソウ群落が84%を占めており、オオイヌタデ-オオクサキビ群落、ヒメムカシヨモギ-オオアレチノギク群落が続いている。特に水戸市、城里町、常陸大宮市(旧大宮町)の市街地周辺では、外来植物群落の面積が大きい。

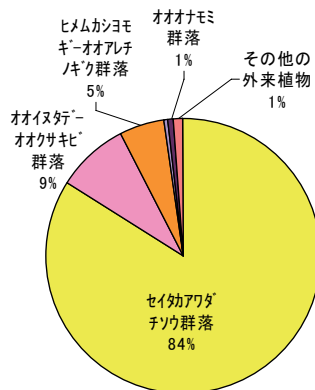
一方、河川敷には、タコノアシ、アキノウナギツカミ、ミゾソバ、カヤツリグサ等の湿地性の植物が生育している場所も残されている。



セイタカアワダチソウ(キク科)*
(写真: 榎日水コン)



ヒメムカシヨモギ(キク科)
(写真: 榎日水コン)



那珂川下流域の外来植物の内訳
(平成14年度)



タコノアシの花
(写真: 榎日水コン)

タコノアシ(ユキノシタ科)
(写真: 榎日水コン)

*セイタカアワダチソウ(キク科)

北アメリカ原産の帰化植物である。急速に広がったのは第二次世界大戦後。地下部からアレロパシー物質を分泌し、他種の種子発芽を抑制する。このため、大きな群落をつくることがある。

図4-58 下流域で見られる外来植物